

城内の清水 ひっそりと残るその名残

水の街 盛岡
名水といわれた清水は
盛岡十大清水と
呼ばれました



盛岡十大清水と呼ばれる清水のひとつである毘沙門清水。藩政時代には、盛岡城内のあらゆる生活用水をまかなっていたといわれています。

現在では盛岡城の濠跡「鶴ヶ池」の岸近く、中津川側の芝生公園に渡る橋の手前に花崗岩の四角い石組みだけが残っており、その場所を伝えています。

大正末期まではわずかに湧いていたといわれていますが、現在では全くの涸れ井戸となっており城内の膳所から湯殿までの水として使われた清水の面影はありません。

もし、今でもこの地から、藩政時代と同様に清水が湧いていたら「どんなに素晴らしかったか」と思わずにはいられません。

